

平成27年度国立天文台研究集会開催報告書

平成27年 9月 24日

国立天文台長 殿

代表者	氏 名	(ふりがな) おかざき あつお		
		岡崎 敦男 		
	所属・職	北海学園大学工学部教授		
	電話	011-841-1161内線2264	E-mail	okazaki@lst.hokkai-s-u.ac.jp
研究集会名	天文教育研究会「地域と育む新しい天文コミュニティの形～学び・文化・人～」			
開催期間	2015年8月19日 ～ 2015年8月21日			
開催場所	北海道大学百年記念会館（〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目）			
参加人数	95名			
研究集会の概要	天文教育普及活動は、国立天文台や大学などの教育機関、公開天文台、科学館を除けば、小規模グループにより地元密着型で行われていることが多い。しかし、天文分野の学校教育カリキュラム、地元観望会ボランティアグループの次世代への継承、障害者などを対象とした天文教育、優れた天文教材などに関する情報の発信や交換のため、これらのことに関心を持つ人々が一堂に会して交流する場を持つ意義は大きい。 本研究会はそのような目的で年に一度開かれているものである。毎回、大学研究者、小中高教員、公開天文台・科学館・プラネタリウム職員、アマチュアら約100名が参加する。全体テーマを中心にかなりつつこんだ議論が展開され、集録には講演のみならず討議した内容も収録される。なお、本研究会は天文教育普及研究会主催の会合ではあるが、門戸は会員外にも広く開かれている。今回も多くの非会員の参加があった。 今年度はメインテーマを「地域と育む新しい天文コミュニティの形～学び・文化・人～」とした研究会を北海道で開催した。北海道で実践されている大学・天文台・地域の連携や、地域コミュニティの従来の枠を超えた活動を取りあげ、これらを北海道外に向けて発信するとともに、全国の有志と相互交流することにより、全国規模での活動に一層のはずみをつけることをねらったものである。具体的には、3日間にわたり以下の4つのサブテーマのもとに基調講演（招待講演）と一般講演（実践例報告）を持ち、さらに小グループに分かれての討議を行った。 1. 天文学習を通じた地域づくり・生業づくり 2. 大きな転回点を迎える社会教育施設 3. 次期学習指導要領と学校教育の今後 4. 大学・研究者の社会貢献 また、今年が国際光年(IYL)であることに鑑み、日本の天文教育普及活動の国際発信について考えるためにIYL特別セッションを設けた。 発表数は、全体で口頭発表32件（うち招待講演8件）、ポスター発表10件であった。その他にパネルディスカッション1件、グループディスカッション2件、まとめのディスカッション1件があった。			

研究集会の成果	今年度の研究会は、メインテーマを「地域と育む新しい天文コミュニティの形～学び・文化・人～」とし、サブテーマの1つとして「天文学習を通じた地域づくり・生業づくり」を取り上げた。これは地域と人と連携した新たな学びの場を創出し、その学びを生涯教育の形として定着させ文化（といえるもの）を形成することが天文教育・普及の一つの方向性であると考えたからである。ここに今年度の天文教育研究会の特徴が現れている。通常の研究会では大所高所からの発表・発言が行われることになりがちだが、このサブテーマでは日常生活の延長としての天文活動や地域づくりとつながった天文活動を取り上げた。講演とグループディスカッションを通して、各地域での様々な取り組みに触れることができ、またそれらの活動を地域づくりという視点から考えることができたのは大きな成果の一つである。 その他のサブテーマのセッション（「大きな転回点を迎える社会教育施設」、「次期学習指導要領と学校教育の今後」、「大学・研究者の社会貢献」）でも、現状を認識する上で重要なまとめや問題提起がなされ、それらについての活発な議論が行われた。特に「大きな転回点を迎える社会教育施設」のセッションでは、冒頭の講演で、現在の社会教育施設が置かれている状況を、運営がうまくいっている施設とそうでない施設にグループ分けしてそれぞれの特徴が整理され、その情報は参加者が社会教育施設の現状に対する認識を共有する上でとても役立った。また、それに続くパネルディスカッションで当事者や社会教育研究者の考えを知ることができ、認識をさらに深めることができた。 これらのサブテーマに限らず通常の活動は国内で閉じたものがほとんどであるが、IYL特別セッションでは日本の活動を世界の活動の中で位置づけるという新たな視点が導入され、参加者が世界とのつながりを意識し、新たな視点から活動を考えるきっかけになった。 これらのセッション以外にも一般講演とポスターのセッションではユニークな事例報告が多くなされ、参加者の視野を広げることができた。 さらに、今年度の研究会では小規模なグループでのディスカッション（テーブルを移動していくワールドカフェ形式のグループディスカッションも実施）を重視した。この形式により参加者が互いに意見交換する機会が増え、各テーマについて深く考えることができたことも本研究会の成果の一つである。
その他参考となる事項 (希望事項も含む)	私たち天文教育普及研究会の目的と活動は、国立天文台の理念を構成するミッションの一つである「天文に関する成果・情報提供を通じて、社会に資する」とこととプロダクトの一つである「研究成果の社会への普及・還元と、未来世代への夢の伝承」と密接に関係している。したがって、本研究会と国立天文台、特に天文情報センターと国際普及室、の活動が連携することはとても重要であると私たちは考えている。この認識を国立天文台と共有したい。 本研究会は場所を変えながら年に一度開催されているが、参加者の多くは大学の研究者ではなく、地元で草の根型観望会を行っているボランティアや小中高の教員や公共施設の職員である。これらの人たちにとっては研究会のために公務で出張することはほとんど不可能で、多くの場合は年休をとって私費での参加となっている。この点で、今年度の研究会を国立天文台共催として支援していただけたことは大変ありがたかった。このような環境を考慮して、来年度以降も今年度と同様、本研究会を国立天文台研究集会として支援していただけるようお願いしたい。